

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こ みち
教育の小径No.96
10月号
2016 October

今月のこぼ

立つ鳥跡を濁さず

立ち去っていく者は、自分のいたところの後始末をきちんとしなければならぬという戒めをいったものです。引き際の潔さをいう場合もあります。



国士舘大学教授
北 俊夫先生

社会科見学を効果的に

- 社会科見学の実施に当たっては、年間指導計画との関連、受け入れ先との調整、子どもの安全上の配慮などさまざまな課題があります。
- 社会科見学による地域の施設利用は、社会科の学習効果を高めるだけでなく、生涯学習の基礎づくりや地域と一体になった学校づくりにも貢献します。

今月の記念日

たまごデー(10月12日)

1492年のこの日、コロンブスがサンサルヴァドル島に上陸し、アメリカ大陸を発見しました。コロンブスは卵を潰して立てたという逸話有名です。

社会科見学・実施上の課題

多くの学校では「社会科見学」(地域によっては「社会見学」といわれている)が実施されています。学校行事として単発に行うのではなく、日々の社会科授業の内容や教材と関連づけて実施することによって、学習の効果を一層高めることができます。

中学年の社会科では、バスを使って市(区)内の主なところを巡ったり、地域のスーパーマーケットや農家や工場などを見学したりしています。高学年では、修学旅行で文化財や公共施設などの見学が行われています。

実施に当たっては、次のようなさまざまな課題が指摘されています。

実際に仕事をしているところを見学するわけですから、見学の時期や時間帯、受け入れる人数などいろいろな制約があります。また、近年子どもの安全上の問題や衛生上の問題から、見学を断られることもあると聞きます。

社会科の年間指導計画にもとづいて見学を計画すると、同じ時期にどうしても多くの学校が集中します。単元の実践時期が重なりますからやむを得ません。また、工場や商店などの見学先にはそれぞれ都合がありますから、見学の時期や時間を指定されることがあ

ります。この結果、社会科見学の時期と学校での指導時期との間にズレが生じるという問題が起こります。

社会科見学の予定を年度当初に計画し、できるだけ早く見学の予約を取るようにするのもひとつの方法です。

また、見学先には学校の指導の意図やねらいを分かりやすく説明し、見学先の言い分も聞き入れながら、見学が実現できるようにします。当事者から直接話を聞いたり観察したりすると、子どもたちは見学先に対して興味や関心を持ち、より深く理解するようになるなど、見学の意義や成果を見学先に伝えるようにするとよいでしょう。

地域の施設利用の意味

ところで、そもそも社会科見学を実施することにどのような意義や役割があるのでしょうか。これには大きく次の三つが考えられます。

まず、現地を実際に観察・見学することによって、社会科の学習成果を高めることができることです。「百聞は一見に如かず」といいます。教科書の写真や活字で学んだことが、目の前で触れたり実感したりすると、子どもの理解と関心は一段と高まります。実物や本物に触れる効果には大きいものがあります。また当事者から話を聞くこ

とは何より説得力があります。

次に、地域の施設を見学することは生涯学習の基礎づくりをすることにつながります。地域の博物館や郷土資料館などを利用することは、社会科の学習内容を深めるために役立つだけでなく、その施設の役割に関心を持ち、利用の仕方やマナーを学ぶ機会にもなります。社会人になったとき、こうした施設を利用しようとする意欲や態度を養うことにつながるからです。

さらに、子どもたちが地域に出かけることは、地域のさまざまな人たちと学校が一体になって子どもを育てようとする機運を高めることになります。見学する企業や施設、団体などの人たちから学校の教育活動を応援していただいているわけです。社会科見学を実施することは、地域と一体になった学校づくりとも深くかかわっています。

このように、さまざまな意味や役割をもっている社会科見学ですから、有意義に計画し実施することが期待されます。合わせて、社会科見学の成果が子どもの学習や成長にどのように表れたかを評価することも求められます。



テレビを消して読書を

「読書の秋」です。読書には、知識や情報を豊富にするだけでなく、感性を研ぎすませ、豊かな人間性をはぐくむという重要な役割があります。

読書ばなれ、文字活字ばなれが指摘されて久しいですが、小学生に限ってみると、読書する子どもや読書量に増加傾向がみられます。「朝読書」や「読み聞かせ」など、これまでの学校や家庭での取り組みの成果といえます。

学校での読書の時間はどうしても限られます。読書が途中で中断してしまうこともあります。読書を継続させ、読書する習慣をより確実なものにするためには家庭の協力が欠かせません。

子どもたちは家に帰ると、無意識のうちにテレビのスイッチを入れるといいます。家庭によっては、いつもテレビがついているとも聞きます。テレビはいまやすっかり日常生活のなかに入り込んでいます。しかし、テレビがついていると、どうしても読書に集中することができません。

各家庭で、読書に打ち込む時間を設けてはどうでしょうか。30分にするか。60分程度にするか。読書時間は子どもと相談して決めます。その時間帯はテレビを消し、パソコンやスマートフォンには触れません。できれば家族みんなが読書し、読書する雰囲気をつくるように努めます。

そして、時期を決めて、読書した本やその感想を紹介し合ったりします。あまり負担感をいだかせないようにすることがポイントです。



教育時事
教育の動向

「食育の教科書」

文部科学省は、学校における食育がさらに充実することを願って、『小学生用食育教材 楽しい食事つながる食育』というタイトルの新しい教材を作成しました。これまで、低学年・中学年・高学年ごとに作成されていた『食生活学習教材』に代わるもので、さまざまな改善が図られています。子ども向けの教材とともに、教師向けの「指導者用」冊子も作成されています。

各学校には、子ども向けの冊子が学級数分配布されているようです。必要な場合には、文部科学省のホームページからダウンロードできます。

教材の特色はいくつかありますが、その一つは、1年から6年までの教材が一冊にまとめられていることです。これによって6年間を見とおした食育を進めていくことができます。

その二つは、食育の指導内容が教科等に位置づけられていることです。これにより、どの学年のどの教科等のどの単元で指導するのが明確になっています。指導内容によって、教科等が特定されている場合と、複数の教科等にまたがっている場合があります。

いま一つは、食に関する用語が重視されていることです。例えば家庭科では「主食とおかず」と指導していますが、本教材では「主食、主菜、副菜」としています。伝統的な食文化である「一汁三菜」に触れられるからです。

コラム **ものの見方・考え方とは何か(24)**

生き方の指標として

2年間にわたって「ものの見方・考え方とは何か」について考え、整理してきました。ものをどのように見たり考えたりするのかという問題は、事象や対象など「もの」をとらえることに留まりません。事実をどう認識したかということは、その後の対応や行動を方向づけたり決定づけたりします。その意味で、ものの見方・考え方を習得することは、人やものや事象などとの接し方やかわり方を考えることであり、自らの生き方と深くかかわっていることだといえます。

物事に対して多面的な見方や考え方をすると、視野の広い、バランスのある行動ができるようになります。逆に一面的な見方や考え方に固執すると、先入観をもって接したりします。

多様な見方や考え方を身につけることは、多くの「引き出し」をもつことです。仕事をしたり楽しんだりして生きていくとき、「引き出し」のなかから必要な見方や考え方を選択し活用できるようになります。自らの生き方の指標として活用することにより、周囲のことをより深く見たり考えたりすることができるようになります。それだけ豊かな人生を送ることができるようになりますと考えます。

執筆をとおして、「ものの見方・考え方」とは、単なる方法や技術ではないことに気づきました。人としての「生き方」そのものであると結論づけることができます。「ものの見方・考え方」を習得することは、人間修行そのものだともいえます。これからも人としてのあり方・生き方を追究しつづけていきたいと思います。(完)

INFORMATION

大好評 新学年へのパスポート **〇年へGO!**



教科で選べるしあげ教材 ※写真は4年の例

編集後記

「教育の小径」の今月号は96号です。12か月×8年間、毎月欠くことなく発行してまいりました。次号から9年次に入ります。ちょっとだけ模様替えしてお届けする予定です。引き続きご愛読のほどお願い申し上げます。

(F記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2016年10月1日